

震災がれき

受け入れ指針「月内に確定」

知事 市町可否は明言避ける

東日本大震災で発生した
がれきの受け入れに向けた
県独自のガイドラインにつ
いて、鈴木英敬知事は九日
の定例記者会見で「今月い
っぱいぐらいで確定させて
いきたい」と述べ、遅くて
も来月初旬までには策定し
たい考えを示した。

【2面に関連】

県と市長会、町村会は先
月二十日、可能な市町から
がれきの広域処理に協力す
ることで合意した。この
日、鈴木知事は「正式に
(市町が)手を挙げている
状態ではない。今、水面下
でいろいろ調整をしてい
る」と、各市町の受け入れ
可否については明言を避け

たが、「スピード感を持っ
て対応したい」と語った。
県議会の山本教和議長も
前向きな姿勢を示している

点では、「住民の理解を得
たり、市町への働き掛け、
企業の協力など、各選挙区
の県議会議員の力は非常に

重要」とし、県議会の協力
も求めたいとした。

また、受け入れを検討す
る際の住民説明会に関して
は、県と市町が共催すると
説明。「技術的な安全性の
話とか、経緯の話とかは県
が前面に出ないといけな
い」と積極姿勢を強調し
た。十日の県議会全員協議
会では、ガイドラインの修
正版や今後の行程を示すと
した。

(奥山隆也、廣瀬秀平、森
川静香)



会見に臨む鈴木知事 県庁で